

# 第10回 南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 議事要旨

◆日時 令和2年1月29日（水）午後2時00分～午後4時15分

◆会場 南あわじ市中央公民館 視聴覚室

◆出席者 委員：6名

松坂委員（委員長）、碓委員（副委員長）

伊吹委員、喜田委員、鈴木委員、谷池委員、西委員

事務局：3名

総務企画部付部長、ふるさと創生課長、ふるさと創生課担当

傍聴者：1名

## ◆会議の概要

1. 開 会 委員長及び事務局から開会の言葉

2. 協議事項

協議 第2期南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

・事務局から南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の概要を説明した。

### 【委員の主な質問・意見・評価】

・委員：絵に描いた餅でないか。また絵に描いた餅にならないためにどうするか。

⇒事務局：人口推計は非常に厳しい数値を示しています。いかにして子育てしやすい環境を作るか。20歳～39歳人口を増やしたいと考えている。

・委員：子どもが学校で地域の魅力を学ぶ授業を受けている。淡路島を好きな児童生徒は増えていると感じる。子ども達が帰ってくることができる淡路島であるべき。

・委員：成人式の市長挨拶で、童謡のふるさとを市長が歌っていた。「志をはたして～」とあるが、志はふるさとで遂げてくれという内容であった。昨今、団塊世代の親が高齢化し、子どもを地元に戻ろうとする動きがある。職場があれば都会よりも田舎の方が子育てしやすいという考えも広まっている。

・委員：京阪神から淡路島へはどうしても交通費が京阪神内に比して高い。四国からの移住を促すべきでは。

- ・ 委員：田が原野化している。木が生えているところもある。
  
- ・ 事務局：移住者向けお試し住宅が洲本市にあります。本市では移住者向けに地元の方々の話を聞くツアーなどを地道に行っています。空き家バンク制度の登録者も年々増加傾向にあります。ただし、5年以上放ったらかしの空き家は使えないものも多い。空き家バンク、農地バンク、空き地のマッチングなどが加速していくことになると思われる。
  
- ・ 委員：イギリスのある小学校では、「分かる教育」に焦点をあて全英2位の学力にまでなったところがある。子どもは子ども集団の中で育つものであり、グループの中で分かることが大事である。
  
- ・ 委員：祖父母がいる環境が教育に良いということをもっと周知すべき。人口減少を抑制する効果があるのでは。
  
- ・ 委員：高齢者等元気活躍推進事業のおもいやりポイント制度はこれからの高齢社会の大きなモデルになる。社会が農村型社会から企業型社会になったことにより、様々なスキルを持っている人を使おうという考えがある。
  
- ・ 委員：K P I 企業立地の26社とは。  
⇒事務局：市内企業（建設業、青果業等）が主なものです。平成17年以降、本社機能を有すると本市が指定したところを言います。本市に大企業を誘致しようとしても、そもそも従業員を確保できるのかと言われます。また、現状は大企業が洲本実業高校の生徒を採用しに来ている状況です。その子達は淡路島で働くことを知らないまま島外で就職することとなります。
  
- ・ 委員：淡路島の有効求人倍率は約2倍ということを誰も知らないのでは。高校では進学組には島内求人を紹介しない。進学した学生は淡路島に職がないという先入観を持っている。よって淡路島に帰らずに島外で就職する。
  
- ・ 委員：島内で求人があるのは介護福祉や観光など限られた職種となっている。  
⇒事務局：病院、介護事業所、建設業、旅館ホテルの求人が多い状況です。また保護者の考えとして、大きい会社が良いと考えられることが多い。結果、島外へ

就職される傾向にあると考えられます。

- ・委員：小学校におけるインフルエンザの流行り方がひどいと感じている。ここ数年、各小学校で空調設備を導入し、暖房をいれたまま換気がおろそかになっているのではないか。

### 3. その他

- 事務局より次回検証委員会開催に係る日程調整を行った。

### 4. 閉 会

- 閉会にあたり、碓副会長よりごあいさつをいただいた。